

子どもの姿と子どもの育ち（園児101人）



～思いやり、助け合い、行動する～ 白組 【5歳児 19人】担任：今田 副担任：相原

「仲間を思いやり、目標に向かい、挑戦・協力し、やり遂げられる」子どもを目指して、「思いやり、助け合い、行動する」ことを保育目標として、グループ活動を中心に、一人ひとりの思いを大切に「できた」「できる」を積み重ねる保育を行っています。

仲間との話し合いをとおして、自分の思いを伝え、仲間の思いを聞くことで、自分と異なる色々な思いや考え、方法などがあることを知り、自分の思いとの折り合いを付けながら仲間の思いを受け入れたり、一緒に解決策を考えることができるようになりました。また、仲間が挑戦している姿を見て、互いに応援しあい、仲間を思いやる心が育まれています。

7月のデイキャンプでは、「仲間を思いやり、目標に向かい挑戦し、やり遂げられる子ども」を目標にして、グループ活動の中で一つ一つやり遂げていくことを経験しました。

駅前ハローズでの買い物では、仲間と商品を探し、品定めをし、見付からないときには店員に尋ねたり、レジではお金を数えて必要な商品を買うことができました。

仮装パーティでは、仲間とアイデアを出し合い、お化けの衣装を作り、可愛いお化けを演じることができました。みんなに見てもらい、驚き、喜んでもらったことで、作る楽しさ、演じる喜びを体験し、達成感とともに仲間との連帯感が深まっています。

これからは、運動会や生活発表会に向け、仲間への思いやりを大切に、話し合い、協力し合って、競技や演劇、製作を進め信頼感と連帯感を育てていきます。また、就学に向けては、学習支援活動と連携しながら、思考力、表現力、探求心を高め、個々の力が一步一步伸びていくよう支援をしていきます。



～みんなつながり、思い広がる～ 青組 【4歳児 21人】担任：蒲生 副担任：乃美

「仲間の一人として生き生きと行動し、自分らしさを表現できる」子どもに向けて、「みんなつながり、思いひろがる」を保育目標に、仲間を認め集団で行動すること、新しいことに挑戦し続けること、自分で考えて行動できることを目指した保育を行っています。

上期は、甘えたい子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、一人ひとりとの会話や触れ合う時間を丁寧に積み重ね、子どもたちが、安心し、様々な活動に前向きに挑戦できるように支援してきました。また、仲間と喜びや悲しみなどの思いを共感し、支え合う力を育みながら、集団で行動することの楽しさや大切さを体感できるように、椅子取りゲームやフルーツバスケット、カルタ、サッカーなどのルールのある遊びや合唱、合奏、製作、運動会の練習にも取り組んできました。

子どもたちは、集団活動の中で、喜びや楽しさ、悔しさなどの気持ちを重ねながら、少しずつ自分の思いを相手に言葉で伝えることができるようになってきました。「じゃんけんを決めたら？」と提案したり、困っている仲間には「大丈夫？どうしたの？」と、声をかけることもできるようになりました。

チームに分かれたゲームでは、「絶対勝つぞー！エイエイオー！」と円陣を組んで団結したり、運動会のリズム表現での大きなバルーン練習でも心をついに演じることで、仲間との一体感を育てています。

これからも、日々の保育や生活発表会、作品展をとおして、「こんなことをしてみたい」「そのためにはどうする？」などと仲間と一緒に考え、挑戦し、演じ、やり遂げる成功体験を重ねることで、仲間との信頼感を深め、一人ひとりの自信を基礎に生き生きと行動し、自分らしさを表現できるよう支援していきます。



～したい やりたい やってみる～ 黄組 【3歳児 18人】担任：松本 副担任：倉留

「自分らしさを発揮し、主体的に興味・関心を深め、活動できる」子どもになるように「したい、やりたい、やってみる」を保育目標として、自分を大切にのびのびと個性を発揮できる子ども、好奇心にあふれ自信を持って挑戦できる子ども、相手の思いに気づける子どもを目指した保育を行っています。

第一に、入園や進級で環境が変化した中で安心して過ごせるよう、一人ひとりの不安な気持ちを受け止め、寄り添うことで職員との信頼関係を深めてきました。この中では、子どもたちが発する言葉を大切に聞き取り、対話を重ねることで、「したい」、「やりたい」と個性を発揮できるようになっています。

これらの「したい」「やりたい」の思いに応えるために当番活動を取り入れました。当番は、朝の会で自分の名前を言ったり、仲間からの質問に答えています。「好きな食べ物は？」「好きな車は？」など、毎朝、子どもたちから思い思いの質問に答えます。給食の時間にはメニューを紹介したり、「いただきます」や「ごちそうさま」の号令をかけています。

当番を何度か繰り返して、仲間の前で恥ずかしく小さな声だったのが、自信を持って大きな声で言えるようになりました。それを褒められることで、次への意欲につながっています。

また、学習支援が増え、絵を描く、物を作る、身体を動かす、歌ったり、合奏をするなど、一人ひとりの興味や関心が広がっています。この中では、自分のやりたいことを主体的に「やってみる」ことが増えていて、それぞれの「やってみる」を大切に見守り応援しています。

遊びでは、役割を決めたごっこ遊びを楽しんでいます。トラブルもありますが、互いの話を聞くなどの仲立ちをすることで「これ貸してあげる。」という言葉が出たり、泣いている相手の頭をなでるなど相手を思いやる心が育っています。

下期は、運動会や生活発表会、作品展、日々の保育の中で、楽しみながら、一人ひとりが個性を発揮して、何にでも好奇心を持って取り組みながら、仲間への思いに気づき、行動できるよう、子どもたちの思いを受け止めながら支援していきます。



～明るく、伸び伸び、自分らしく～ 桃組

【桃組 2歳児 16人】担任:栗林 副担任:森戸

「自我と感性を育み、自分から自分らしく自分の思いを表現できる」子どもに向けて「明るく、伸び伸び、自分らしく」を保育目標に、身近なことに興味を持って様々な事に挑戦する子ども、伸び伸びと元気に体を動かす子ども、沢山の経験とおして、感性を育む子どもとなるように保育を行っています。

保育室に遊びのコーナーを作って、自分で遊びたい玩具を出して思い思いに遊べる環境を作ったり、屋上や公園では保育士と追いかけて走ったり、三輪車やボール、滑り台を使って思いっきり体を動かして遊べる環境を整えています。

また、体操のひろばへの参加がはじまりました。体を動かすことが大好きな子どもたちは、講師の指導で動物になって楽しく走ったり、這ったり、跳んだり、跳び箱や平均台、マット運動などにも挑戦することで運動機能の基礎を高めてきました。

製作では粘土や紙、絵の具などを使うことによって、素材の手触りやにおい、形、色の違いを体感し、「やってみたい」と創作意欲が高まって、「やってみよう」と自分から挑戦する気持ちが芽生えてきています。

音楽に合わせて歌ったり、楽器を鳴らしたり、体を動かすリトミックも導入して、伸び伸びと全身を使って、個性豊かに思い思いに表現する楽しさを満喫しています。

これからも、季節を素材にして、見たり、聞いたり、触ったり、匂ったり、味わって、「感じる」時間を大切に、絵を書いたり、製作をしたり、みんなと歌ったり、踊ったり、演奏したり、運動したりと、自分の思いを伸び伸びと表現できるように活動を支援していきます。



～自分の思い、いっぱい育む～ 赤組

【1歳児 18人】担任:奥崎 副担任:山崎

「人や周りの物への興味や好奇心を育み、思い思いに行動できる」子どもとなるよう「自分の思い、いっぱい育む」を保育目標に、一人ひとりが安心して過ごせる、人や周りの物への興味の芽が育まれる、自分でやってみたいと思える気持ちが持てる保育を行っています。

家庭とは異なる園の環境や集団生活の中で生じる、一人ひとりの不安な気持ちや甘え、思いや欲求を、優しく受け止め、声をかけ、スキンシップを行いながら、安心して、ありのままの自分が出せるようゆっくり寄り添うことを大切に、互いの信頼関係を深めてきました。

また、他児とも保育士を間にして、玩具などで一緒に遊びながら、やりとりできるような関わりをしてきました。

そうした中で、園の生活にも慣れ、誰もが安心して甘えたり、気持ちを出せるようになってきました。周りの他児の存在にも気になり、顔を見合わせて笑ったり、一緒に遊びをしようと関わりを持ち始めています。時折、玩具の取り合いもありますが、保育士が思いを代弁することで、「かして」と少しずつ自分の思いを仕草や簡単な言葉で伝えるようになってきています。

また、身近な自然や物への興味や好奇心が育まれるように、散歩に行ったり、屋上に出て、大空を見上げ風を感じ、草木や花、鳥、虫と一緒にいたり、触れたりしてきました。

食事や衣服の着脱、片付けなどの身の回りのことは、保育士と一緒にしながら「自分で！」の気持ちにつなげていきました。

引き続いて、子どもたち一人ひとりが安心して自分の思いが出せるよう、甘えや欲求を受け止め、気持ちを満たしながら、散歩や五感を使った遊びに取り組む中で、自分の思いを言葉や体で表現したり、人や物への興味や好奇心が育まれるように支援をしていきます。



～笑顔あふれ、元気に育つ～ ひよこ組

【0歳児 9人】担任:金井

「愛情いっぱい受け止め、五感を磨き、全身を使って思いを表現できる」子どもへの育成を願って「笑顔あふれ、元気に育つ」を保育目標として、よく眠り、よく食べ、よく遊ぶ子ども、笑い、泣き、声や表情で自分の気持ち、欲求を出せる子ども、五感を使って見る、聞く、触れることに興味を持てる子どもを目指して保育を行っています。

愛情いっぱいの保護者の中から離れ、慣れない環境の中で泣いていた子どもたちも、今では少しずつ慣れきて、保育士が「〇〇ちゃん」と呼ぶと、にっこり笑って応えたり、保育士が「おいで～」と、両手を広げて待っていると、ハイハイやよちよち歩いて保育士の所まで来られるようになりました。

そして、ギュッと抱きしめると全身で心地良さを感じ、笑顔を交わすことで、保育士との信頼が育まれ、深い愛着関係が築かれています。

また、一人ひとりに愛情を注ぐ中で、自分の思いや欲求を小さな仕草や指差しで伝えてくれるようになってきました。その都度、保育士がその思いや欲求をしっかりと受け止めて、「〇〇だね」「〇〇したいね」などと言葉にして共感すると、全身を使って喜んだり、うなずいたり、首を横に振ったりして、気持ちの伝え合いが活発になっています。

沐浴やシャワーでは、はじめのうちは、不安で涙が出ていましたが、「シャワーかけるよ」「体を拭くよ」などと、一つひとつ声掛けをすることで安心することができると、思い思いにお湯をバシャバシャ叩いたり、蛇口のお湯に手を伸ばしたり、全身でお湯に触れる気持ち良さを満喫していました。

これからは、インフルエンザなどの感染症の流行期に入ります。引き続き、元気でよく眠り、よく食べ、よく遊ぶことで感染症に負けない体力を身に付けていきます。

また、一人ひとりに愛情を注ぎ、思いや欲求を受け入れ、欲求を満たすことで、豊かな感情を育み、安心して自分の思いを表現していけるように支援していきます。

